

ヒマワリ (ニチリンソウ)

油用、飼料用、食用、生薬、さらに観賞用と、世界各地で幅広く栽培されている一年草。夏期を代表する花だが、品種改良により周年栽培が可能となっている。

学名 *Helianthus annuus* キク科
和名 向日葵 (ヒマワリ) 日輪草 (ニチリンソウ) 日車 (ヒグルマ)
原産地 北米

特性・・・短期栽培・省力栽培可能な一年草
開花特性・・・一般に相対的長日 (相対的短日や中生もある)
開花期・・・季咲きで7~9月
栽培環境・・・排水性がよく、有機質に富んだ土壌。

1坪あたりの植え付け本数・・・約55~140/坪
1株あたりの採花本・・・1本
価格・・・カタログ参照



播種

播種時期・・・4~9月
発芽条件・・・
発芽適温・・・20~25℃
発芽日数・・・3~4日
(覆土は種子が隠れる程度)

定植

定植時期・・・移植の場合、播種後10~14日後
定植間隔・・・株間条間12cm7条植え (ハウス)
株間条間15cm2条植え (露地)
畝・・・cm
ネット・・・株間に合わせて1~2段
マルチ・・・なし

肥料

元肥・・・N-P-K = - - kg/a
(基本的に無肥料だが9~3月播種の場合、元肥をN-P-K=0.5-0.5-0.5kg/a程度施肥する)
pH・・・5.5~6.5
追肥・・・N-P-K = - - kg/a

作型

◆普通栽培・・・4~9月直播、またはプラグ播種後2週間程度で移植、6~11月出荷
※長日タイプは品種により長日性の強弱があり、特に長日性の強い品種の場合は播種可能時期がかなり限定されるため注意

◆冬期栽培・・・周年タイプ使用。9~3月直播、またはプラグ播種後2週間程度で移植、11~5月出荷。冬期最低13℃加温を推奨。

※長日タイプを秋冬の短日時に作付けすると、著しい開花の遅れと丈の伸長が見られる

病虫害

病害 灰色カビ病、黒斑病、斑点細菌病、褐斑病、葉枯細菌病、空洞病、青枯病、菌核病、白絹病、うどんこ病、ベト病等
虫害 オンシツコナジラミ、スリップス、アブラムシ、ハモグリバエ、ハダニ等

出荷

切り前は外側の花弁が開き始めから全開の頃。葉は花に近い方から4枚程度残して除去し、殺菌効果のあるタイプで水揚げして出荷する。

管理

生育適温は20~30℃。冬期は13℃以上を確保。それより低くなると奇形花が出る危険性が増す。光を好むため、日照不足では極端に生育が落ちるため注意。
発芽から活着までは十分な灌水が必要だが、活着後は水を控えて肥大化を防ぐ。
連作は障害が出るので避けること。